

理念・教育目標		
<p>(理念・ミッション)</p> <p>専門技術は、知識、技能、そして人間力を兼ね備えてこそ発揮できるものであるという信念に基づき、人間力と品位を有する職業人ならびに専門職業人を育成することをミッションとする。</p> <p>日本語学科では、専門技術＝日本語力にとどまらず、日本語の知識、運用力にとどまらず、人間力にも注力した教育を行う。</p> <p>(教育目標)</p> <p>神戸電子専門学校、神戸情報大学院大学あるいはその他の高等教育機関（大学等）に進学することを目的とする。</p> <p>(育成する人材像)</p> <p>日本語の知識、運用力にとどまらず、異文化理解、コミュニケーション能力の育成を図り、実社会においてグローバルに活躍できる国際人としての素地を養う。</p>		
1	学校運営	評価
1)	学園全体の運営方針が策定されている。	4
2)	日本語教育機関の告示基準に適合している。	4
2	入学者の募集	評価
1)	教育内容を含む最新、かつ、正確な学校情報を開示している。これらは想定する入学志願者の理解できる言語で行うよう努めている。	4
2)	海外の募集代理人の行う募集活動が適切に行われていることを把握している。	4
現状と課題		
<p>・教育内容をはじめとする情報は、web上で英語、中国語、韓国語、ベトナム語で公開。また、中国語でSNSを通して学校の日常なども発信している。コロナの影響で現地での募集活動はできず、海外向けにオンラインでの学校説明会などを開催している。</p>		
3	入学者選考	評価
1)	入学者の選考に関し、学習能力、勉学意欲、経費支弁能力、日本語能力等について根拠資料で確認する等、適切な方法で確認している。	4
2)	入学者の選考にあたっては、学校関係者が面接等を行うよう努めている。	4
①現状と課題		
<p>・入学者の選考では、根拠資料を精査し、ほぼ100%の許可率を維持している。選考面接は、学校職員が現地へ赴き直接面接をするほか、スカイプを利用し、全員に面接を行っている。今年度はコロナにより、現地での面接は行えなかったため、スカイプ、zoomで面接を行った。</p>		
②今後の改善方策		
③特記事項		

4	納付金	評価
1)	入学検定料、入学金、授業料その他納付金の金額、納付時期、納付方法、及び学費以外に入学後必要な費用を募集要項に明記している。	4
2)	関係法令に基づいた学費返還規定を定め、公開している。	3
3)	上記1)、2)について、入学志願者、在籍者及びその経費支弁者の理解できる言語で情報公開に努めている。	3
①現状と課題		
1) については明記し、入学志願者、経費支弁者の理解できる言語に翻訳している。2) の学費返還規定は学則に明示、必要に応じて説明する。本校、公式ホームページの各言語のページにて情報公開をしている。		
②今後の改善方策		
③特記事項		
5	学生支援	評価
1)	日本社会を理解し、適応するための取り組みを行っている。	4
2)	進路指導を適切に行っている。	4
3)	重篤な疾病や傷害のあった場合の対応を定めている。	4
4)	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。	4
5)	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取り組みを継続的に行っている。	4
①現状と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・入学後すぐにオリエンテーションを行い、学校生活や日本での生活についての留意点を通訳付きで説明した。また、3か月ごとの全体集会では、その時期にあったトピックで学生たちに注意喚起を行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大下において、国や自治体などからの情報は、学生がわかりやすいように資料を作成し、説明、掲示を行い、学生の不安解消に努めた。 ・進路指導に関しては、進路担当者を中心に、2年生進級前や2年生進級後の進路説明会、志望進路の分野ごとの進学説明会などを行った。出願書類の作成、面接連取なども担任と連携しつつ支援した。 ・アルバイト先の報告書をバイト先に提出し、記入してもらったり、2、3か月ごとに報告書を確認し、性格で最新のバイト先を把握するようにした。 ・月ごとに出席不良者を呼び出し指導、必要に応じて家庭訪問も行った。 ・コロナ感染に関して、学校全体で活動指針、健康管理マニュアルを作成、学生の健康管理を徹底した。 		
②今後の改善方策		
<ul style="list-style-type: none"> ・入国時のガイダンスについて、今後もコロナの影響で入国時期がばらばらになる場合も予想される。その場合に、効果的に学生にガイダンスをする方法を考えておくことが必要。 		
③特記事項		

6	教員	評価
1)	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容を明確に定めている。	4
2)	教職員の教育力及び支援力強化のための研修を実施するとともに、他機関の実施する研修会への参加を促している。	3
3)	教員評価を適切に行っている。	4
①現状と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・業務項目を分類、整理し、各担当者を決め業務を行っている。 ・学校全体の研修以外に、日本語学科の専任・非常勤と合同でzoomの学習会、授業に関する勉強会を数回行った。 ・非常勤の授業を見学、または専任の授業を見てもらうことによって、授業の質の統一を図った。 		
②今後の改善方策		
<ul style="list-style-type: none"> ・専任がそれぞれ研修会に参加。勉強会を開き学科全体で内容を共有していくスタイルを今後も続けた 		
③特記事項		
7	教育活動	評価
1)	理念・教育目標に合致したコースを設定し、カリキュラムを体系的に編成している。	4
2)	授業開始前までに学習者の日本語能力を試験等で判定し、適切なクラス編成を行っている。	4
3)	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。	4
4)	授業記録簿等を備え、実施した授業を正確に記録している。	4
5)	理解度、到達度の測定と評価を実施期間中に適切に行い、その結果を的確に学生に伝えている。	4
6)	授業評価を含む教育活動の評価を定期的に行なっている。	3
①現状と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・非漢字圏学生の増加により、今までのカリキュラムの見直しを行った。 ・入学時にプレースメント試験を行い、学生の日本語能力を判定した。また、入国待ちの学生には、zoomでインタビューを行い日本語能力を判定した。 ・3か月ごとに定期試験を行い、レベルに達していない学生には補習、再履修を行わせる。 ・各レベルのカリキュラムは専任がそれぞれ担当、内容の充実を図るとともに、学生の実態に合わせた縦断的な取り組みができるよう、レベル間でのカリキュラムのすり合わせを行う。 ・レベル終了時（6か月ごと）、非常勤を含む担当教員にカリキュラム、教材等についてのアンケートを実施。また学生への授業アンケートも適宜実施した。 		
②今後の改善方策		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートは、今まで日本語学科独自で行っていたが、学校全体と同じ時期にwebで行いたい。 		
③特記事項		

8	教育施設	評価
1)	教室には十分な照度があり換気がなされているとともに、語学教育に必要な遮音がなされている。	4
2)	授業時間以外に自習できる部屋の確保に努めている。	4
3)	法令上必要な設備等を備えている。	4
①現状と課題		
・ 学園が定めるコロナ禍での登校授業マニュアルに従い、安全に授業ができるよう座席の配置、教室の		
②今後の改善方策		
・ 古くなった教室の机、椅子の順次入れ替えを希望しているが、まだ、行われていない。幸い今年度は入学者が少なく、今あるもので対応できた。次年度に順次入れ替える予定。		
③特記事項		
9	安全・危機管理	評価
1)	対象となる学生全員が国民健康保険に加入している。	4
2)	感染症発生時の措置を定めている。	4
3)	気象警報発令時の措置、災害発生時の避難方法等を定め、教職員及び学生に周知している。	3
①現状と課題		
・ 新型コロナウイルスに対しての活動指針、登校管理マニュアルなど、学園全体で構築、日本語学科独		
②今後の改善方策		
・ 災害発生時の避難方法については、丁寧な学生への説明が必要であるが、まだ不十分。強化に向けて取り組みたい。		
③特記事項		
10	法令の遵守等	評価
1)	法令遵守に関する担当者を決めている。	4
2)	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取り組みを行っている。	3
3)	個人情報保護のための取り組みを行っている。	4
4)	入国管理局をはじめとする関係省庁等への届出、報告を遅滞なく行っている。	4
①現状と課題		
・ 1)～3)については学校の報告を参照		
・ 関係省庁への届け出は、担当を決め、遅滞なく行っている。		
②今後の改善方策		
③特記事項		